CDSAに基づくマネーロンダリング

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

犯罪の内容

汚職・麻薬取引その他の重大犯罪（利益没収）法（CDSA）第6部は、マネーロンダリング犯罪を定めています。第51条は、他人が犯罪行為に関与していることを知り、または信じるに足りる合理的な理由がある場合に、その他人が犯罪行為による利益を保持するのを援助することを犯罪としています。第54条は、自己のものを含め、犯罪行為による利益を取得し、所持し、使用し、隠匿し、または移転することを犯罪としています。第55条は、犯罪行為による利益であると合理的に疑われる財産を所持し、または使用している者が、それについて十分な説明ができない場合を犯罪としています。2019年に追加された第55A条は、認識はないものの疑うに足りる合理的な理由がある状態でロンダリングを援助した者を捕捉します。主たる犯罪の法定刑の上限は、個人の場合、500,000シンガポールドルの罰金もしくは10年の拘禁刑またはその併科です。会社の場合は、100万シンガポールドルまたは関係する財産の価額の2倍のいずれか高い額の罰金が科されます。[1]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

この構造がデジタルアセット事業にとって重要なのは、主観的要件のためです。第51条および第54条は、資金が詐欺に由来することを知りながら出金を処理した取引所の従業員に及びます。ss 51(1A)および54(3A)の過失類型は、最高250,000シンガポールドルまたは5年の刑で処罰され、信じるに足りる、または疑うに足りる合理的な理由がありながら何もしなかった従業員に及びます。第55条は、実務上の立証責任を転換します。財産が犯罪収益であるとの合理的な疑いを検察が示せば、被告人はそれについて十分な説明をしなければなりません。自分の取引所口座でUSDTを受け取って転送したマネーミュールは、出所を尋ねなかったと述べるだけでは責任を免れることはできません。

前提犯罪と外国の要素

「犯罪行為（criminal conduct）」とは、第2附則（Second Schedule）に列挙された重大犯罪を構成する行為、またはシンガポールで行われれば重大犯罪となる外国の重大犯罪を行うことをいいます。附則は長大であり、詐欺（cheating）、刑事上の背任、コンピュータの不正使用、決済サービス法上のライセンスに関する犯罪、脱税が含まれています。2019年以降、同法は、一応の証明がなされれば、シンガポールで重大犯罪となる国外での行為は行為地においても犯罪であると推定しています。この推定により、検察はマネーミュールの事件ごとに外国法を立証する必要がなくなります。[2]

スイスの実務家にとって、スイス刑法典第305条の2との比較は示唆に富みます。スイスは、前提犯罪として重罪または加重租税犯罪を要求し、没収を妨げる行為を処罰します。シンガポールは、合理的な疑いのもとでの単なる所持を含め、より広い範囲の取扱いを処罰し、過失による援助にも及びます。シンガポールの従業員は、チューリッヒであればせいぜいマネーロンダリング防止法（AMLA）上の義務違反として自主規制機関（SRO）の制裁を受けるにとどまる行為について、有罪とされる可能性があります（第F部第V章および第H部第I章参照）。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

届出義務と内報（ティッピング・オフ）

疑わしい取引の届出義務は、取引、職業、事業または雇用の過程で、財産が犯罪行為の収益であることを知り、または疑うに足りる合理的な理由があるすべての者に課されています。届出を怠ることは、s 45に基づく犯罪です。内報（ティッピング・オフ）、すなわち届出がなされ、または捜査が開始された後に、捜査を妨げるおそれのある情報を開示することは、s 57に基づき、250,000シンガポールドル以下の罰金もしくは3年以下の拘禁刑またはその併科により処罰されます。[3] 法曹職業法（Legal Profession Act）上の弁護士の立場や、デジタル・ペイメント・トークン・サービス提供者に関する届出制度の詳細については、第L部第IV章で取り上げています。

特徴	シンガポール（CDSA第6部）	スイス（スイス刑法典第305条の2）
前提犯罪	第2附則に定める重大犯罪またはこれに相当する外国の犯罪	重罪または加重租税犯罪
自己の収益	対象（s 54）	対象（自己洗浄も処罰対象）
過失類型	あり（ss 51(1A)、54(3A)、55A）	なし（未必の故意を含む故意が必要）
疑いのもとでの所持	立証責任が転換される犯罪（s 55）	相当する規定なし
法人に対する罰金	100万シンガポールドルまたは財産価額の2倍まで	スイス刑法典第102条に基づき500万スイスフランまで
内報（ティッピング・オフ）	s 57、3年以下	AMLA第10a条による禁止、AMLAに基づき制裁

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. CDSA 1992, ss 51(1), 54(1)–(3), 55, 55A and 57, Singapore Statutes Online（2026年6月閲覧）：記載の法定刑。過失に基づく類型に関するss 51(1A)および54(3A)の軽い刑を含む。 ↩
2. CDSA 1992, s 2(1)における「criminal conduct」、「serious offence」および「foreign serious offence」の定義、ならびにSecond Schedule、Singapore Statutes Online。 ↩
3. CDSA 1992, s 57（tipping-off）, Singapore Statutes Online（2026年6月閲覧）；s 45（duty to disclose）は同法から引用したものであり、現行の法定刑については別途確認していない。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com